

在宅医療ケア部会 会議録 (令和元年度 第2回)

1. 日 時 令和元年7月22日(月) 18時～20時

2. 場 所 飯塚市役所 2階 多目的ホール

3. 出席者(順不同/敬称略)

【飯塚病院】大矢崇志、後藤裕美【嘉徳鞍手保健福祉環境事務所】大塚純子 岩井咲姫

【飯塚市健幸スポーツ課保健センター係】瀬尾善忠、藤田奈緒【嘉麻市役所健康課】藤井みはる

【桂川町健康福祉課健康推進係】樋口智絵【多機能型児童発達支援事業所ひばり】福田千代

【児童発達支援センターこどもの森・多機能型児童発達支援事業所森の子】許斐孝史

【機能強化事業ピース】毛利あすか【飯塚市】古野知恵子 梶原あゆみ 伊佐恵【嘉麻市】福田津紀正

【桂川町】川野寛明【基幹相談支援センター】藤嶋勇治、小出悦子、彦田純子

4. 概 要

1) 意見交換会(6月15日)の振り返り ※当日の参加者アンケートをもとに意見交換

意見交換会には、当事者ご家族が3名、医療機関から15名、訪問看護ステーションから17名、障がい福祉サービス事業所等から15名、相談支援事業所から10名、行政機関から2名、教育関係機関から3名、在宅医療ケア部会・事務局から25名の計90名の参加となった。当日の参加者アンケートでは、部会の中の各部門の取り組みに対し、それらを取り入れ活用してほしいとの声と共に、活用に向けた具体的な方法や案が多く寄せられた。またこういった会で当事者・支援者の意見を聴くことができ良かったとの声も多く聞かれた。

<意見交換>

全体

- ・いつも支援者同士の話になりがちだが当事者の生の声を聴けたのが一番よかった。普段は遠慮して言えない事も言いやすい雰囲気が作れたと思う。
- ・訪問薬剤師の行っている事(支援内容)を知ることができた。
- ・参加者の関心の高さが伺えた。医療的ケア児者を色んな職種で支えていることが分かり、また細かい繋がりが肉付けされていていっていると感じた。
- ・福祉事業所の参加が少ないという印象を受けたので、もっと参加して頂けるよう働きかけると良いと感じた。
- ・各部門の報告が分かりやすく興味深かった。様々な職種の方が参加され、皆さん参考になったと思う。
- ・グループワークでは普段関わる機関の方々とは初めて直接顔を合わせ話す機会となり良かった。
- ・グループワークのメンバーの中に当事者のご家族がおられ、意見を発表して下さった。率直な意見が言えたのは、その場が話しやすい雰囲気であったからだと思う。「皆でやっぺいこう」「皆で協力していこう」という雰囲気や場づくりが大切だと思った。

研修会について

- ・研修実施内容のビデオライブラリ化は考えた事がなかったので参考にしたい。
- ・重症児の姿勢管理やケア方法(食事・入浴・移乗など)、介護者(親)の介護負担を考慮したケア内容、子どもさんの発達を促す方法などの研修希望が聞かれた。

ツール開発について

- ・サポートファイルは連携や情報共有・リスク管理などを目的とし開発しているというこれまでの取り組みの

経緯は説明できた。

- ・「今後使ってみたい」、「データ化が必要」という意見が多く出されたので、今後どう活用するかは掘り下げて検討が必要。積極的に使ってみたいと考えている方々と共に活用方法について検討する会があっても良いのではないかと。

災害対策について

- ・参加者の意見からも、改めて個別避難計画を立てておくことが必要だと感じた。避難しない方にどのように避難を促すかは課題。避難計画書作成のプロセスで避難方法を検討したりシミュレーションを行う事で災害対策の意識が高まると思う。
- ・避難時にかかりつけ病院が受け入れてくれたとしても遠いとその分リスクが高まる。自宅に近い病院などが避難先として受け入れてくれると良い。行政からも働きかけがあると良いのではないかと。
- ・発電機を備えている会社などの情報をあらかじめ集めておくとも良いのではないかと。
- ・「災害時個別避難計画書」の下方に「飯塚圏域障がい者地域自立支援ネットワーク・在宅医療ケア部会」と入れてはどうかとの意見がある。⇒ 今後検討する。

2) 研修会企画について

<今後の予定>

今年度第1回目の大研修会は（昨年から取り組んでいる）摂食嚥下をテーマにした研修会で、9月13日（金）に決定。講師は飯塚病院歯科口腔外科：中松先生、伊藤歯科：伊藤先生、北九州市立総合療育センター歯科：山本先生に依頼済み。案内先はこれまでご案内してきた機関のほかに、筑豊地区全体の児童関連の福祉サービス事業所だけでなく医療的ケアを行う可能性のある障がい（者）の福祉サービス事業所も対象とする。その他、医師会・歯科医師会・薬剤師会にもご案内をする。

<アナウンス>

飯塚病院小児等在宅医療推進事業と筑豊小児科医会との共催企画で、来年1月10日（金）に経管栄養（胃瘻）に関する講演会が決定した。講師は東北医科薬科大学の石田雄介先生。

3) 連携ツール開発について

現在3人の子どもさんと保護者の方にご協力いただきサポートファイル（案）を試行予定。実際に支援機関が協力しながら活用してみて、再度意見を出し合い内容を見直す。使ってみたいと言う声が多く聞かれているので、意見交換会でいただいた意見を元に活用できる形をさらに考えていく。

4) 災害対策について

現在、「災害時個別避難計画書」作成協力者2人目の嘉麻市在住の子どもさん・保護者とともにも計画作成に取り組んでいる。7月18日は支援者らが訪問し、医療用具や衛生材料の準備、停電対策、自宅環境確認を家族と一緒にいった。自宅からの避難先についてはかかりつけの飯塚病院が受け入れ態勢を取っているが、災害時の交通渋滞などを想定すると、車で5分で着く近くの医療機関が避難先となると安全であり、このことは主治医の飯塚病院大矢先生が直接医療機関にご相談して下さったり、医師会全体に協力依頼をして下さっている最中であるがすぐに体制が整う状況ではない。子どもさんが通所先で被災した場合の対応については、2か所の通所先事業所にて対策を検討して下さっている。

次回は関係している全支援機関が集まり、それぞれの機関での災害時対策を持ち寄り個別避難計画書を完成させ、またそれぞれの動きを皆で確認する予定。